

# McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

8

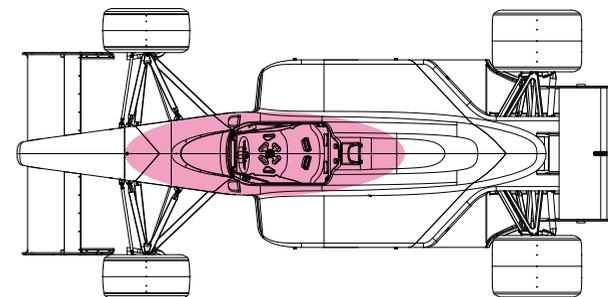
マクラーレン ホンダ  
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを  
内部機構まで完全再現！



# Mission 27 ステアリングギアボックスを 組み立てる②

今号は、モノコックに様々なパーツを取り付けるための事前準備を行う。まずコクピットとモノコックの組み合わせを確かめて、しっかりと組み合わない場合はコクピットの調整作業をする。次にステアリングギアボックス関連のパーツを組み立ててモノコックと組み合わせ、ステアリングギアボックスの構造を確認する。



## 今号のパーツ

① トラックロッド **ダイキャスト製**



② フロントサスアーム(左下) **ダイキャスト製**



③ トラックロッドブラケット×2 **メタル製**



④ フロントサスアームブラケット×2 **メタル製**



⑤ ビスG (2.0×6P-TP BK)×5



⑥ ビスP (1.4×6P-M SiL)×2



⑦ ビスQ (2.0×8P-M SiL)×2



※ビスは予備1本を含む。

## 今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤
- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター ・カッティングマット
- ・マスキングテープ ・つまようじ

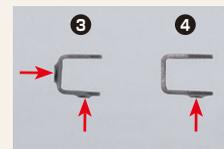
## 用意するもの

- ・コクピット ※23号で組み立て
- ・モノコック ※25号で組み立て
- ・ステアリングラック ※25号で提供
- ・ステアリングラックギア ※25号で提供
- ・ステアリングシャフト ※25号で提供
- ・ステアリングピニオンギア ※25号で提供
- ・ステアリングギアガイド ※25号で提供
- ・モノコックフロントプレート ※25号で提供

## ポイント

ブラケットのネジ山を確認する

- ③トラックロッドブラケットと④フロントサスアームブラケットの赤矢印で示した面の穴にはネジ山が切られているので確かめておく。



本モデルのサスアームやロッドは、1:8のビッグスケールにふさわしい強度と質感を併せ持つダイキャスト製となっている。このほか、トラックロッド両端のピロボールとナットで構成される部分や、フロントサスアームのアップライトを取り付ける先端部分などのディテールも再現し、それぞれの形状やカラーリングにこだわったつくりになっている。

◀MP4/4のフロントサスアーム周辺。

In Focus

# 1 モノコックとコクピットの 組み合わせを確認する

● 23号で組み立てたコクピットと25号で組み立てたモノコックを用意し、モノコックからショックスタビユニットを取り外す。

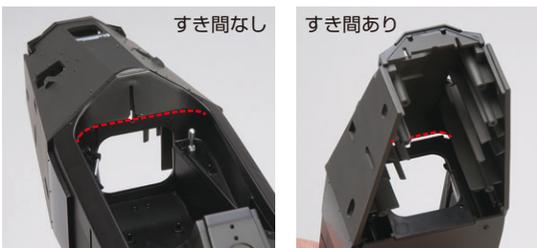


● 赤線で囲んだ部分と形状を合わせて、モノコックにコクピットを写真のようにはめ込む。



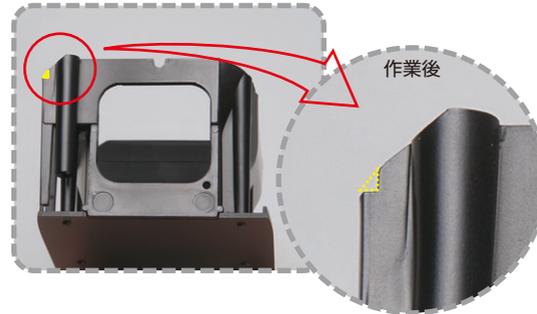
■ 力を入れずにやさしくはめ込む。

● モノコックの上下両側から、赤い点線で示した合わせ目を確認する。すき間ができる場合は、次の工程でコクピットの調整作業をする。すき間なく組み合わせ場合は調整作業をしなくてよい。



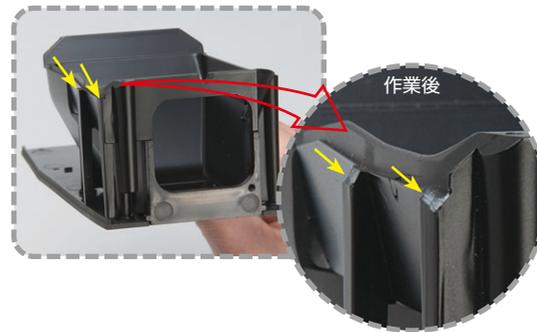
## 《調整作業》

① コクピットの赤丸で示した部分に黄色で示したようなバリがある場合はカッターで削って取り除く。



※以下②③の作業は、モノコックとの組み合わせを確認しながら少しずつ進める。

② コクピットの黄矢印で示した角の部分のカッターで削る。



③ コクピットの黄矢印で示した部分を写真のように削る。

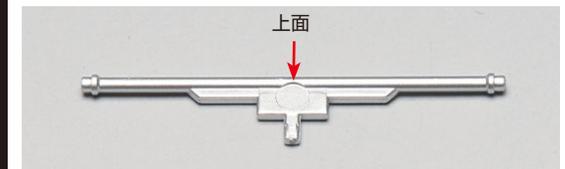


● モノコックからコクピットを取り外し、モノコックにショックスタビユニットを戻す。24号で緩めたままになっている赤丸のビスをプラスドライバー（00番）で締める。



# 2 ステアリングラックにトラックロッド ブラケットを取り付ける

● 25号で提供したステアリングラックを用意する。赤矢印で示した丸い印の有無で上面と下面を見分けるので確かめておく。



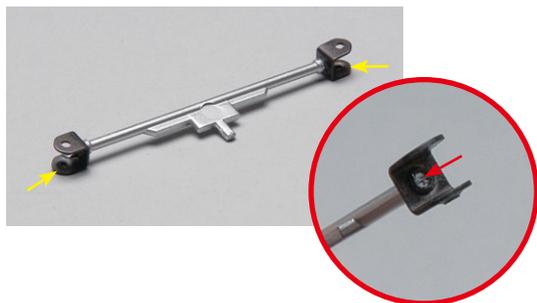
● ステアリングラックの赤矢印で示した先端に、③トラックロッドブラケットを写真のようにねじ込み、黄矢印のネジ山の面をステアリングラック下面側に調整する。



■ ねじ込みすぎないように注意する。

**NEXT STEP** >>>

●同様の作業をして、ステアリングラックのもう片方の先端にもトラックロッドブラケットを取り付ける。両方のトラックロッドブラケットのネジ山の面(黄矢印)が、ステアリングラック下面側になっていることを確かめ、両方のねじ込み部分(赤矢印)につまようじで瞬間接着剤を塗り、完全に接着するまで1分ほどおく。



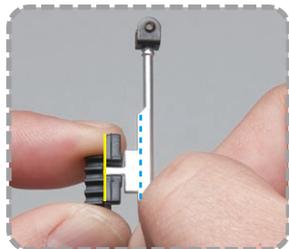
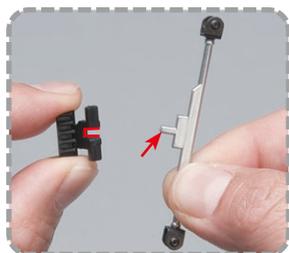
### 3 ステアリングラックとステアリングラックギアの接着準備

●25号で提供したステアリングラックギアを用意する。

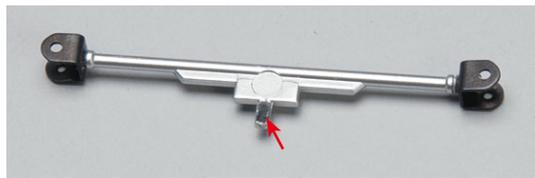


#### 《仮組み》

写真を参考に、ステアリングラックの上下の面の向きに注意して、赤矢印の突起をステアリングラックギアの赤線で示した溝に組み合わせる。このとき、突起の先端を黄線部分と合わせ、黄線部分と青色の点線部分は平行にする。

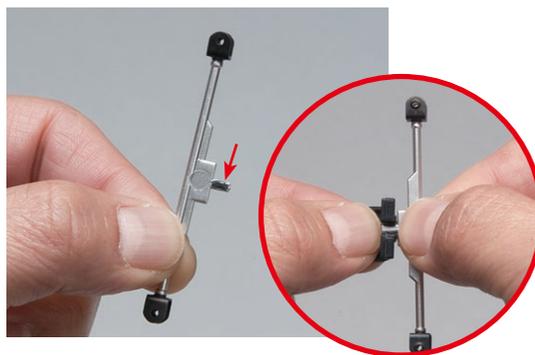


●ステアリングラック上面の赤矢印で示した突起の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



### 4 ステアリングラックとステアリングラックギアを接着する

●ステアリングラックの突起の塗装をはがした部分(赤矢印)に瞬間接着剤を塗り、仮組みしたようにステアリングラックギアと組み合わせ、完全に接着するまで指で1分ほどおさえる。



### 5 ステアリングシャフトとステアリングピニオンギア、モノコックフロントプレートとステアリングギアガイドの接着準備

●25号で提供したステアリングシャフト、ステアリングピニオンギア、モノコックフロントプレート、ステアリングギアガイドを用意する。



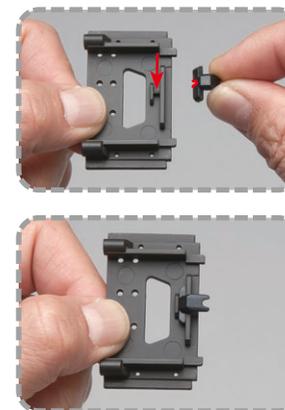
#### 《仮組み》

ステアリングシャフトとステアリングピニオンギアは、向きに注意して写真のように組み合わせる。



#### 《仮組み》

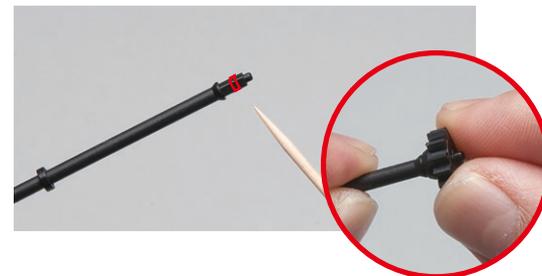
モノコックフロントプレートの赤矢印の部分に、ステアリングギアガイドの赤線の溝を差し込んで、写真のように組み合わせる。



### 6

### ステアリングシャフトとステアリングピニオンギア、モノコックフロントプレートとステアリングギアガイドを接着する

●赤線で囲んだステアリングシャフトの周囲につまようじで瞬間接着剤を塗り、仮組みしたようにステアリングピニオンギアと組み合わせ、完全に接着するまで1分ほどおさえる。



- モノコックフロントプレートの赤線で囲んだ部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにステアリングギアガイドと組み合わせて、指で2~3分おさえる。



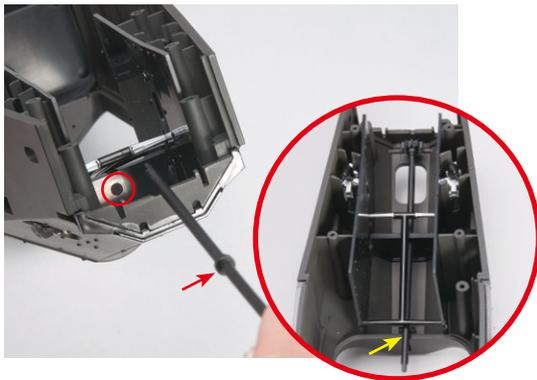
- モノコックフロントプレートとステアリングギアガイドが完全に接着するまで1時間ほどおく。



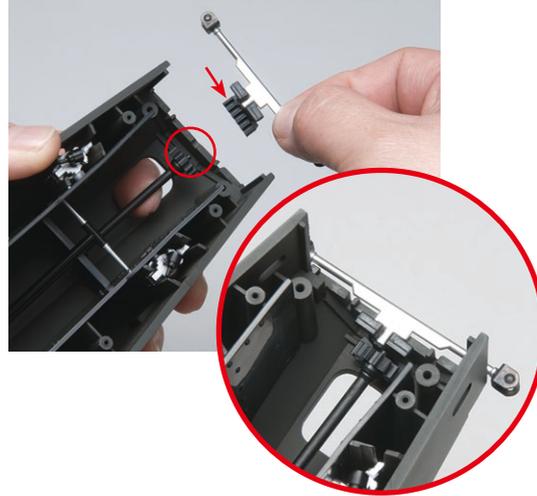
7

### ステアリングギアボックス関連パーツの構造を確認する

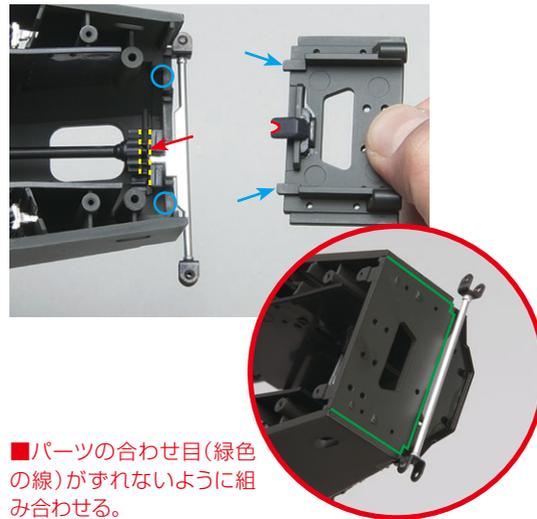
- ステアリングシャフトは、ショックスタビユニットの赤丸の穴に差ししてから、モノコックの黄矢印の溝に乗せる。赤矢印の部分が穴に当たるまで深く差し込む。



- 指でステアリングシャフトを少し持ち上げて、赤丸の部分にすき間をつくり、そのすき間からステアリングラックのギア部分(赤矢印)を差し込んで写真のように組み合わせる。

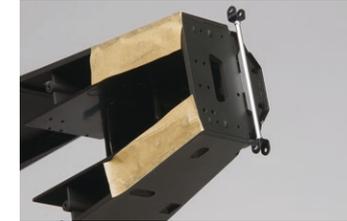


- 黄色の点線で示したすき間にあるステアリングシャフト先端の突起(赤矢印)とモノコックフロントプレートの赤線の溝を組み合わせる。その際、青矢印の突起と青丸部分を組み合わせ、モノコック前部の形状と合わせて取り付ける。



- パーツの合わせ目(緑色の線)がずれないように組み合わせる。

- 6センチ程度のマスキングテープを2本用意して、モノコック、ショックスタビユニット、モノコックフロントプレートを写真のように固定する。固定したらステアリングラックを動かしたりステアリングシャフトを回したりして、各パーツの構造を確認しておく。



### 今号の完成

モノコックとしっかり組み合うようにコクピットを調整した。続いてモノコックとステアリングギアボックス関連のパーツを組み合わせて構造を確認し、モノコックに様々なパーツを取り付ける準備ができた。



### 保管パーツ

今号で使用しなかった①トラックロッド、②フロントサスアーム(左下)、④フロントサスアームブラケット、⑤ビスG、⑥ビスP、⑦ビスQは紛失しないよう大切に保管しておこう。フロントサスアームブラケットは保管用のビニール袋を用意し、号数とパーツ名を明記して入れておくとよい。



# Mission 28 ステアリングギアボックスを組み立てる③

今号は、前号で構造を確認したステアリングギアボックス関連のパーツを本組みする。まずステアリングシャフトやステアリングラックなどを組み合わせてステアリングギアボックスを完成させる。次にモノコック最前部にブレーキとクラッチのマスターシリンダーを取り付ける。

## 今号のパーツ

① フロントサスアーム(左上) ダイキャスト製



② プルロッド ダイキャスト製



③ トラックロッドマウント  
ブラケット(左) メタル製



④ ボールシャフト メタル製



⑤ プルロッドマウントブラケット(左) メタル製



⑥ ビス M (1.4 × 4P-M SiL) × 2



⑦ ビス P (1.4 × 6P-M SiL) × 4



⑧ ビス R (1.4 × 4F-M BK) × 2



⑨ ビス S (1.4 × 12P-M BK) × 2

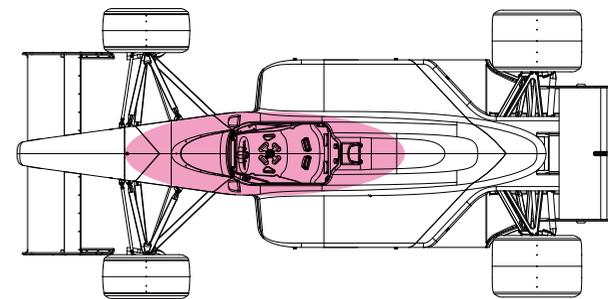


※ビスは予備 1 本を含む。



サスアームはボディとタイヤをつなぎ、走行中の加減速やコーナリングの際に発生する大きな力を受け止める部分だ。空力的な役割も担っており、その形状はマシンの空力性能に影響を与える。本モデルのフロントサスアームは、先端部のディテールだけでなく、空力が考慮された断面形状にもこだわった作りになっている。

◀MP4/4の左前のアームやロッド類。



## 今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤
- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番) ※22号で提供
- ・カッター ・カッティングマット
- ・マスキングテープ

## 用意するもの

- ・ステアリングギアボックス ※25号で組み立て
- ・ブレーキマスターシリンダー×2 ※26号で組み立て
- ・クラッチマスターシリンダー ※26号で組み立て
- ・ノーズコーンブラケット×4 ※26号で提供
- ・ビスJ (1.4 × 6P-M BK) × 4 ※26号で提供
- ・モノコック ※27号で組み立て

## ポイント

### 組み立て前の再確認

- 今号の作業をスムーズに進めるため、27号の組み立てガイドを参照しながら、ステアリングギアボックス関連パーツの組み合わせと構造を事前に再確認しておこう。



## 1 ステアリングギアボックス関連パーツの組み立て準備

- 27号で組み立てたモノコックを用意する。

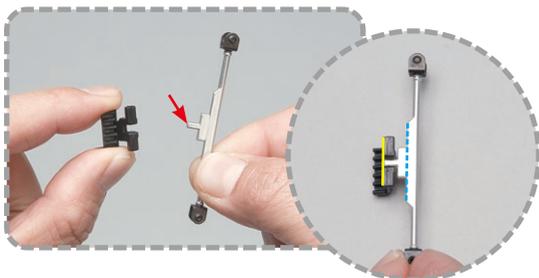


- モノコックのステアリングラックとステアリングシャフトが運動することを確認してから、マスキングテープをはがしてモノコックフロントプレートとステアリングラックをモノコックから取り外す。運動しない場合は、次の工程の調整作業をして、運動するようにしておく。



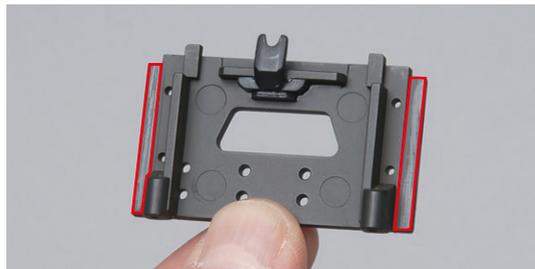
### 《調整作業》

ステアリングラックとステアリングラックギアの接着部分を慎重に分割し、パーツに残った接着剤をカッターではがす。ステアリングラックに再び瞬間接着剤を塗り、赤矢印の突起先端を黄線部分と合わせ、黄線部分と青色の点線部分は平行にして接着する。



- 調整後、ステアリングシャフト、モノコック、モノコックフロントプレートと再び組み合わせ、ステアリングシャフトとステアリングラックが運動することを確認する。

- モノコックフロントプレートの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



- モノコックの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。はがしたら6センチ、4センチ、10センチのマスキングテープを1本ずつ用意する。



## 2 ステアリングギアボックス関連パーツを組み立てる

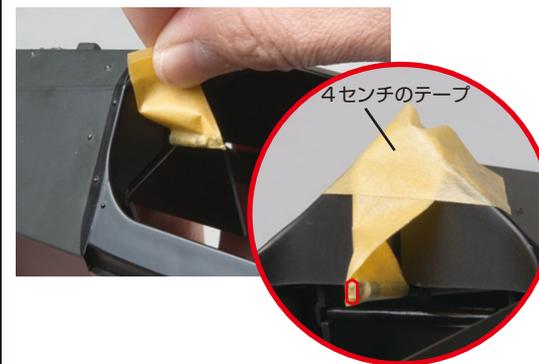
- ステアリングシャフトは止まるまで押し込んで指でおさえ、赤線で囲んだ楕円状の先端を写真のように天地方向に合わせる。



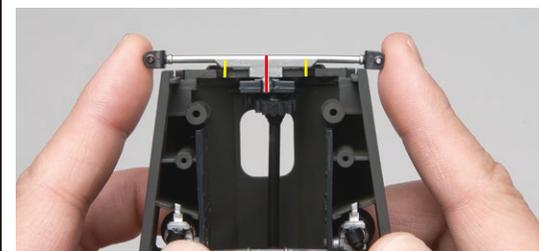
- 6センチのマスキングテープの真ん中でステアリングシャフトをはさみ、貼り合わせる。



- ステアリングシャフトを180度回転させ(赤線で囲んだ先端は再び天地方向に向く)、はさんだテープの上から4センチのマスキングテープを貼って写真のように固定し、先端が天地方向からずれないようにする。



- モノコックの黄線で示した溝を目安に、ステアリングラックの中心(赤線)とモノコックの中心を合わせ、ステアリングシャフトのギアとステアリングラックのギアを組み合わせる。



- 詳しい組み合わせ方は27号を参照しよう。

NEXT STEP >>>

- 組み合わせたギアがずれないように指でおさえる。モノコックの塗装をはがした部分(赤線)にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ステアリングシャフト、モノコックフロントプレートと組み合わせて指で2~3分おさえる。



- 10センチのマスキングテープでモノコックとモノコックフロントプレートを写真のように固定する。1時間ほどおいて完全に接着したら貼ってあるマスキングテープをすべてはがす。



3

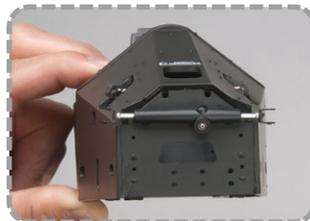
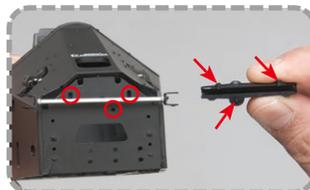
### モノコックとステアリングギアボックスの接着準備

- 25号で組み立てたステアリングギアボックスを用意する。



### 《仮組み》

モノコックの赤丸の穴に、ステアリングギアボックスの赤矢印の突起を差し込み、写真のように組み合わせる。



4

### モノコックにステアリングギアボックスを接着する

- ステアリングギアボックスの赤線で囲んだ部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにモノコックと組み合わせて指で2~3分おさえる。



■ 赤矢印の突起には接着剤を塗らない。

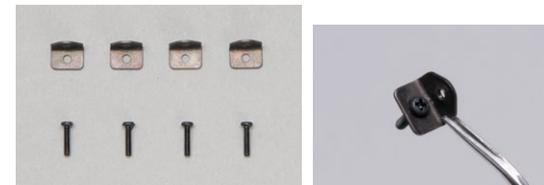
- 完全に接着するまで1時間ほどおく。



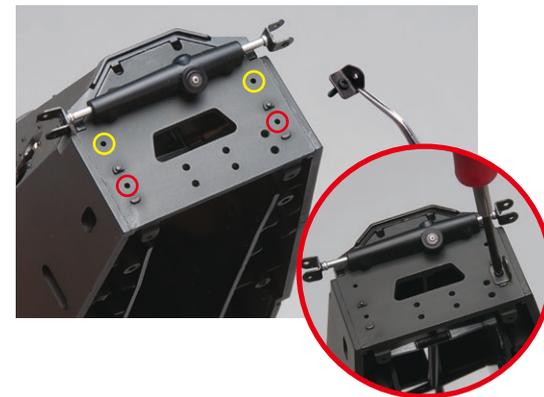
5

### モノコックにノーズコーンブラケットを取り付ける

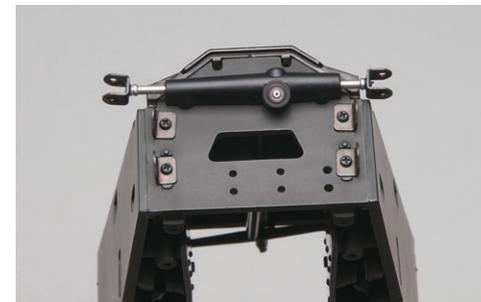
- 26号で提供したノーズコーンブラケット×4とビスJ×4を用意し、写真のように組み合わせる。



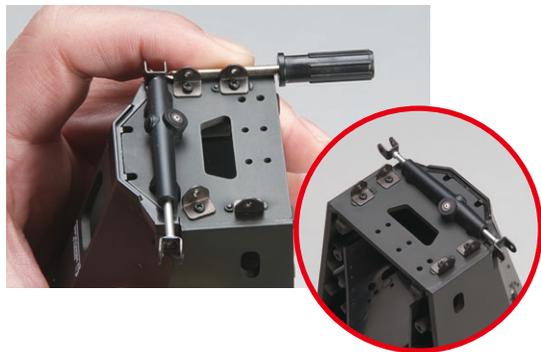
- モノコックの4つの穴に、ノーズコーンブラケットを向きに注意して仮留めする。上下の突起にはさまれた赤丸の穴にビスJを差してプラスドライバー(00番)で留めてから、黄丸で示した穴に仮留めすると向きが合わせやすい。



- 4つの穴にノーズコーンブラケットが仮留めされた状態。



- 22号で提供したブラスドライバー (0番)を片側2つのノーズコーンブラケット側面に当てて直線上に並ぶようにし、ビスを締めて固定する。同様の作業をして、反対側のノーズコーンブラケットも写真のように固定する。

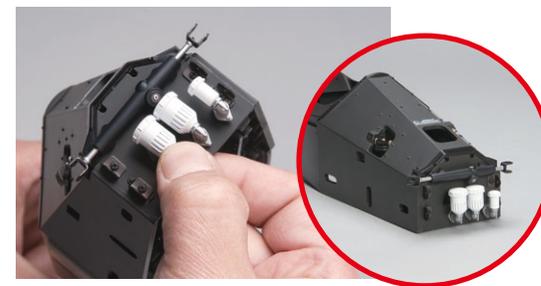


### 《仮組み》

モノコックの赤丸の穴にクラッチマスターシリンダーの赤矢印の突起を差し込む。同様に、黄丸の穴にはブレーキマスターシリンダー×2の突起を差し込み写真のように組み合わせる。



- ブレーキマスターシリンダーの塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、1つずつモノコックと組み合わせて指で2~3分おさえる。3つのマスターシリンダーが完全に接着するまで1時間ほどおく。

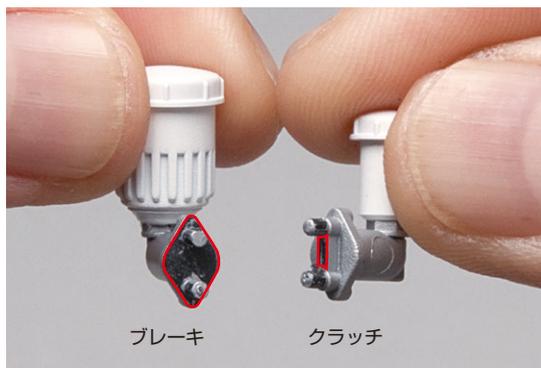


## 6 モノコックとマスターシリンダーの接着準備

- 26号で組み立てたブレーキマスターシリンダー×2とクラッチマスターシリンダーを用意する。



- ブレーキマスターシリンダー×2とクラッチマスターシリンダーの赤線で囲んだ部分と突起側面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



## 7 モノコックにマスターシリンダーを接着する

- クラッチマスターシリンダーの塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにモノコックと組み合わせて指で2~3分おさえる。



- クラッチマスターシリンダーはまっすぐに差しおさえる。

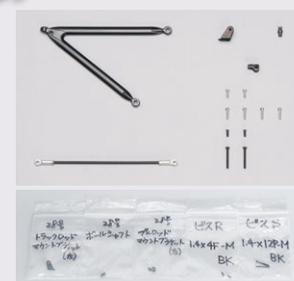
## 今号の完成

ステアリングギアボックス関連のパーツやノーズコーンブラケット、ブレーキとクラッチのマスターシリンダーがモノコックに取り付けられた。



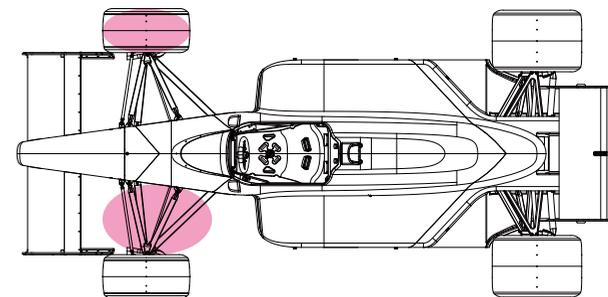
## 保管パーツ

今号の提供パーツはすべて保管パーツとなる。小さなパーツと今号ではじめて提供されるビスR、ビスSは、それぞれ保管用のビニール袋を用意して入れておくと紛失が防げる。



# Mission 29 左のフロントサスアームを組み立てる

今号は、フロントタイヤと左のフロントサスアームを組み立てる。まず3号の組み立てガイドを参照しながら、今号提供のフロントタイヤにフロントホイールを取り付ける。次にフロントサスアーム(左上、左下)とフロントブレーキ(左)、トラックロッド、プルロッドなどをモノコックに装着する。



## 今号のパーツ

① フロントタイヤ



② フロントホイール ダイキャスト製



## 今号で使用する道具

- ・瞬間接着剤
- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番)  
※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・ピンセット ・マスキングテープ
- ・つまようじ

## 用意するもの

- ・サスアームジョイント(左前) ※8号で提供
- ・フロントブレーキ(左) ※9号で組み立て
- ・フロントサスアーム(左下) ※27号で提供
- ・フロントサスアーム(左上) ※28号で提供
- ・トラックロッド ※27号で提供
- ・プルロッド ※28号で提供
- ・モノコック ※28号で組み立て
- ・フロントサスアームブラケット×2 ※27号で提供
- ・トラックロッドマウントブラケット(左) ※28号で提供
- ・プルロッドマウントブラケット(左) ※28号で提供
- ・ボールシャフト ※28号で提供
- ・ビスG (2.0×6P-TP BK)×4 ※27号で提供
- ・ビスM (1.4×4P-M SiL)×1 ※28号で提供
- ・ビスP (1.4×6P-M SiL)×4 ※27号と28号で提供
- ・ビスQ (2.0×8P-M SiL)×1 ※27号で提供
- ・ビスR (1.4×4F-M BK)×1 ※28号で提供
- ・ビスS (1.4×12P-M BK)×1 ※28号で提供



1988年当時のF1マシンのタイヤは、現在の形状とは外観が異なっている。本モデルのタイヤは、実車のタイヤを丁寧に採寸し、ホイールに装着して空気を入れた状態での形状にこだわった作りになっている。サイドウォールのステンシル調のロゴやトレッド面のスリップサインと併せて、実車の外観をリアルに再現している。

◀MP4/4右前のアーム類とフロントタイヤ。

In Focus

## 1 フロントタイヤにフロントホイールを取り付ける

● 2号で組み立てたフロントタイヤとガイドを参照しながら、①フロントタイヤに②フロントホイールを取り付ける。

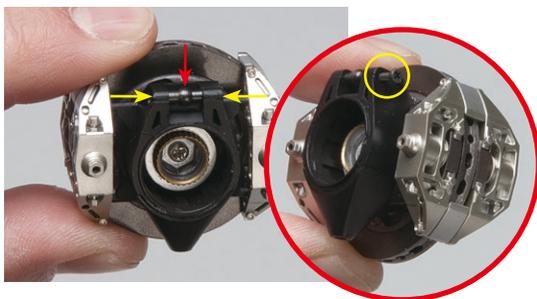


## 2 フロントサスアーム(左上)にフロントブレーキ(左)を取り付ける

● 8号提供のサスアームジョイント(左前)、9号で組み立てたフロントブレーキ(左)と28号提供のフロントサスアーム(左上)、トラックロッドマウントブラケット(左)、プルロッドマウントブラケット(左)、ボールシャフト、ビスRとビスSを1本用意する。ボールシャフトにビスSが差し込めることを確かめておく。



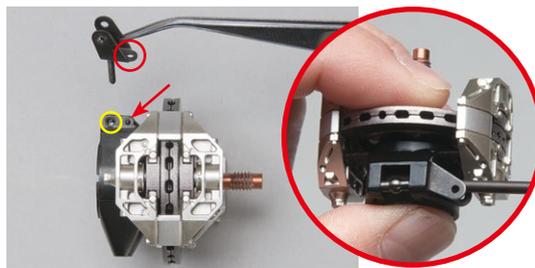
● フロントブレーキ(左)の黄矢印の穴と一直線にしてボールシャフト(赤矢印)をはめ込み、写真のようにビスS(黄丸)を差して位置を調整する。調整後ビスSは抜く。



● トラックロッドマウントブラケット(左)とビスSを写真のように組み合わせる。



● フロントブレーキ(左)の赤矢印の突起にトラックロッドマウントブラケット(左)の赤丸の穴をはめ込みながら黄丸の穴にビスSを差し込み、プラスドライバー(00番)で締める。



■ ビスの締めすぎに注意する。

● サスアームジョイント(左前)の赤点部分つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、赤線で囲んだ部分とプルロッドマウントブラケット(左)の形状を合わせて組み合わせる。完全に接着するまで1分ほどおさえる。



■ ピンセットを使うと作業がしやすい。

● 次の作業をスムーズに進めるため、プラスドライバー(00番)の先端にマスキングテープでビスRを固定しておく。



● パーツの向きに注意して、フロントサスアーム(左上)の赤矢印で示したフック状の部分をフロントブレーキ(左)のボールシャフトに掛ける。



黄線で囲んだ部分と形状を合わせてサスアームジョイント(左前)を組み合わせる。

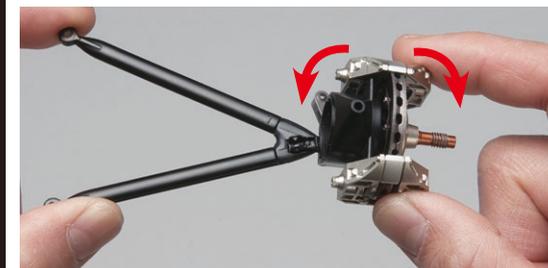


3つのパーツが外れないようにおさえて裏返し、青丸部分を準備しておいたビスRで締める。



■ ビスの締めすぎに注意する。

● 写真を参考に、フロントサスアーム(左上)に正しい向きでフロントブレーキ(左)が取り付けられていること、ボールシャフト部分の動きを確認する。



NEXT STEP >>>

3

### モノコックにフロントサスアーム(左上)とトラックロッドを取り付ける

● 27号提供のトラックロッド、フロントサスアームブラケット×2、ビスG×2、27号と28号で提供したビスP×4、28号で組み立てたモノコックを用意する。トラックロッドはプルロッドに比べて太くて短い。



● フロントサスアームブラケットの黄矢印で示したネジ山の面をボディ下側に向け、モノコックの赤線で囲んだ2箇所形状を合わせてはめ込み、ビスGを差してプラスドライバー(0番)で締める。



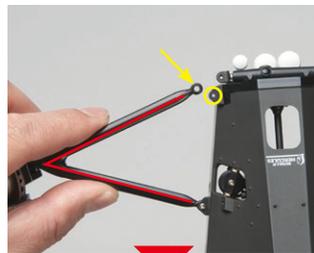
■ フロントサスアームブラケットとモノコックにすき間がなくなったら締めるのをやめる。

● モノコックの赤丸のフロントサスアームブラケットの内側にフロントサスアーム(左上)の赤矢印の輪を組み合わせ、ビスPを差してプラスドライバー(00番)で締める。

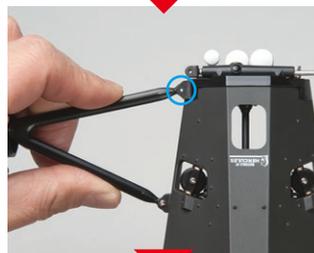


■ ビスPの頭がブラケット上面に接したら締めるのをやめる。

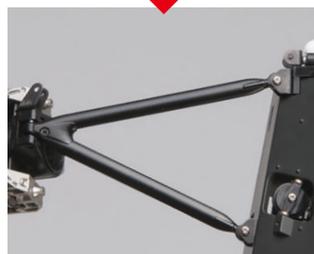
● フロントサスアーム(左上)に力を加えて赤線で示したV字の角度を調整し、黄矢印の輪とフロントサスアームブラケットの黄丸の穴を合わせる。



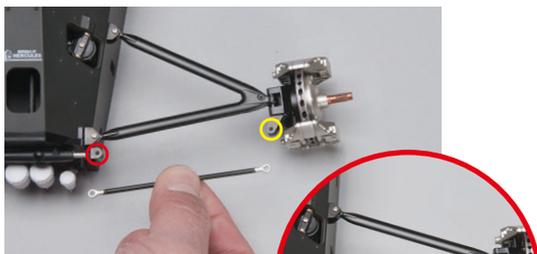
合わせた穴(青丸)にビスPを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



■ ビスPの頭がブラケット上面に接したら締めるのをやめる。



● 赤丸のトラックロッドブラケットと黄丸のトラックロッドマウントブラケット(左)の内側にトラックロッド両端の輪を組み合わせ、それぞれビスPを差してプラスドライバー(00番)で締める。



■ どちらのビスPも頭がブラケット上面に接したら締めるのをやめる。

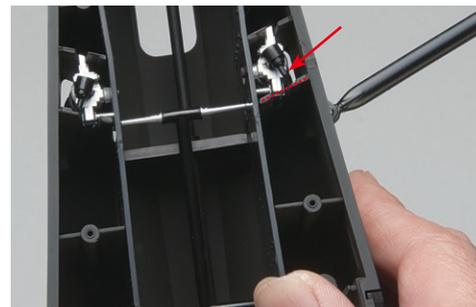
4

### モノコックにフロントサスアーム(左下)とプルロッドを取り付ける

● 27号提供のフロントサスアーム(左下)、ビスG×2、ビスQ×1と28号提供のプルロッドとビスM×1を用意する。



● モノコック内側のショックスタビユニットを指で前方に押し、赤矢印の突起と赤い点線の仕切りにすき間をつくる。



● プルロッドをモノコックの黄丸の穴に通し、片端の輪(赤丸)を赤矢印の突起に差す。ショックスタビユニットを元の位置に戻し、プルロッドが突起から外れないようにする。



● プルロッドのもう片端の輪(赤矢印)は、赤丸のプルロッドマウントブラケット(左)にはめ込み、ビスMを写真のように差してプラスドライバー(00番)で締める。



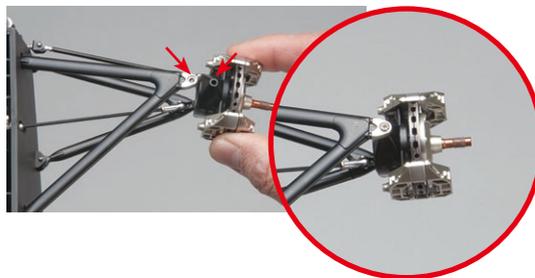
■ ビスの締めすぎに注意する。

● フロントサスアーム(左下)の赤矢印の輪はモノコックの赤丸の穴に、黄矢印の輪は黄丸の穴に通して、モノコックの同色の矢印で示したビス穴と重ねる。それぞれの輪にビスGを差し、プラスドライバー(0番)で締める。



■ 赤矢印の輪を先にモノコックの穴に通すと作業がしやすい。

● フロントサスアーム(左下)とフロントブレーキ(左)の赤矢印で示した穴を重ね、ビスQを差してプラスドライバー(0番)で締める。ビスQは止まるまで締めながら1回転ほど緩め、フロントブレーキ(左)が動くようにしておく。



● フロントブレーキ(左)がスムーズに動くことを確かめる。



## 今号の完成

今号提供のタイヤとホイールが組み立てられ、フロントタイヤが2本できあがった。またモノコックには上下のフロントサスアーム、トラックロッド、プルロッドが装着され、それらの先端にフロントブレーキ(左)が取り付けられた。



## PIT IN

### ウイングとタイヤの保管について

フロントウイングやリアウイング、3本のタイヤは、シリーズ後半まで作業をしないので、傷を防ぐだけでなく塗装やゴムの劣化に対しても効果のある、個別のプラスチック容器などに入れて保管するとよい。保管の際は、高温や低温、多湿、直射日光を避けるようにしよう。

#### フロントウイングとリアウイング

保管容器に緩衝材代わりにティッシュペーパーを敷いてパーツを置き、容器とパーツのあいだにティッシュペーパーを詰める。パーツに負荷がかからないようにふたをして、紫外線や温度変化が少ない場所に保管しよう。



※フロントウイングはノーズコーンと組み合わせると安定する。

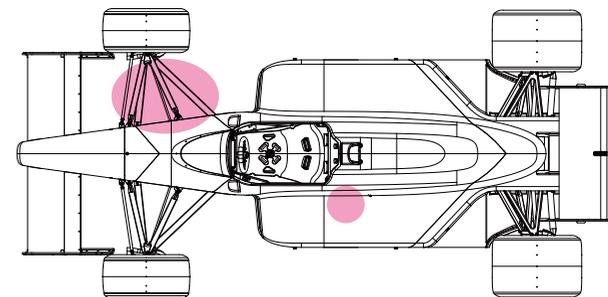
#### タイヤ

保管容器の内側をティッシュペーパーで覆い、タイヤがプラスチックや樹脂と触れないようにする。ゴムの成分から極微量のガスが出ることもあるので、密閉はせずに、紫外線や温度変化が少ない場所に保管しよう。



# Mission 30 右のフロントサスアームを 組み立てる①

今号は、モノコックにコクピットを装着し、次にフロントサスアーム(右下)を取り付ける。さらに、実車の配線や配管をリアルに再現するため、ホースにワイヤーを通して成形しやすいように作業してから、サイドポンツーン(左)にホースを接続する。



## 今号のパーツ

① トラックロッド ダイキャスト製



② フロントサスアーム(右下) ダイキャスト製

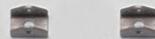


③ ホース A (Φ 1.2 × 750) ④ ワイヤー A (Φ 0.4 × 800)



※ Φは直径を意味する

⑤ フロントサスアームブラケット × 2 メタル製



⑥ ビス G (2.0 × 6P-TP BK) × 5



⑦ ビス P (1.4 × 6P-M SiL) × 2



⑧ ビス Q (2.0 × 8P-M SiL) × 2



※ ビスは予備 1 本を含む。

## 今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー (00番)  
※ 2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番)  
※ 22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・マスキングテープ
- ・ピンセット
- ・定規
- ・つまようじ

## 用意するもの

- ・コクピット ※ 27号で組み立て
- ・モノコック ※ 29号で組み立て
- ・サイドポンツーン(左) ※ 17号で組み立て

## ポイント

### ホースとワイヤーの保管

●今号で使用したホースとワイヤーの残りは、保存用のビニール袋を用意して、号数とパーツ名を明記しておくことよ。今後も異なる太さのホースやワイヤーが提供されるので、同様にパーツごとにビニール袋に分けて保管しておこう。



サイドポンツーンの左側にはバッテリーが繋がっており、その周辺には細かく配線がされている。本モデルでは、ホースにワイヤーを組み合わせて使用することにより、配線の細部まで再現し、より実車のディテールに近づけている。1:8のビクスケールだからこそ提供できるパーツだ。

◀ MP4/4のサイドポンツーン(部分)

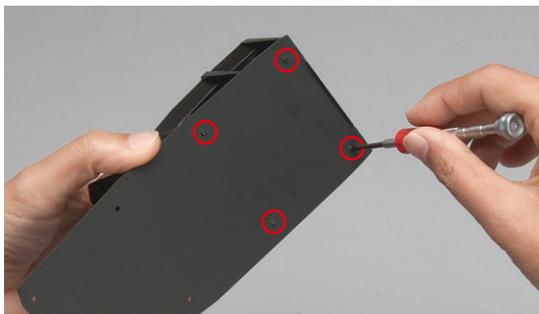
In Focus

# 1 モノコックにコクピットを接着する

● 29号で組み立てたモノコックと27号で組み立てたコクピットを用意する。



● コクピットの赤丸部分のビスJ4本をプラスドライバー（00番）で取り外し、モノコックボトムプレート（後）を外す。

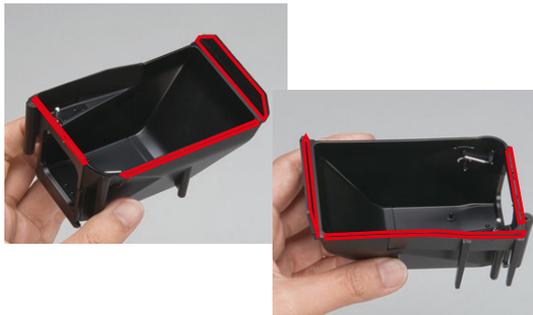


## 《仮組み》

モノコックにコクピットを写真のように合わせ、接着箇所を確認する。



● 接着箇所となるコクピットの赤線で囲んだ部分の塗装を、カッターの刃のない部分ではがす。



● 塗装をはがした部分にプラモデル（スチロール樹脂）用接着剤を塗り、確認したようにモノコックにコクピットを接着する。



■ 接着剤のはみ出し防止のため、赤線部分（幅2～3ミリ程度）には接着剤を塗らない。

● モノコックとコクピットの接着面がずれないように、2～3分おさえる。



● 10センチ程度のマスキングテープを用意して、モノコックとコクピットを写真のように固定する。

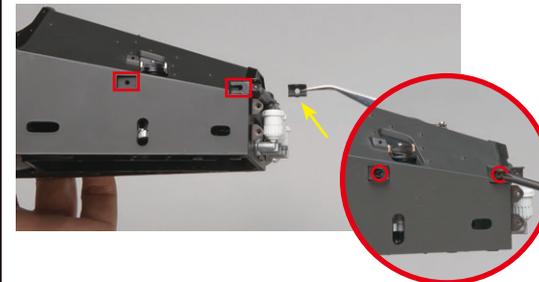


● 5センチ程度のマスキングテープを用意し、モノコックとコクピットの背の部分の境目を写真のように固定する。1時間ほどおいて完全に接着したら貼ってあるマスキングテープをすべてはがす。



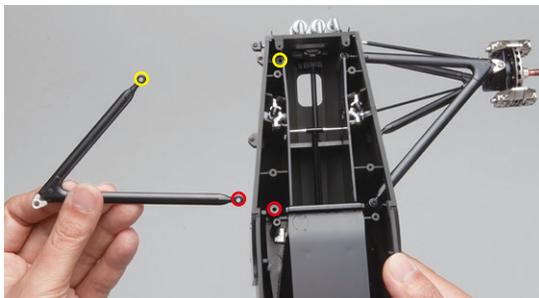
# 2 フロントサスアームブラケットの取り付けとフロントサスアーム（右下）の組み立て

● 29号の組み立てガイドを参照しながら、⑤フロントサスアームブラケットの黄色の矢印で示したネジ山の面をボディ下側に向け、モノコックの赤線で囲んだ部分2箇所と形状を合わせ、⑥ビスGをプラスドライバー（0番）で締める。



NEXT STEP >>>

- 29号の組み立てガイドを参照しながら、②フロントサスアーム(右下)の赤丸と黄色の丸をそれぞれモノコック側面を通して、モノコックの同色の丸で示したビス穴と重ねる。

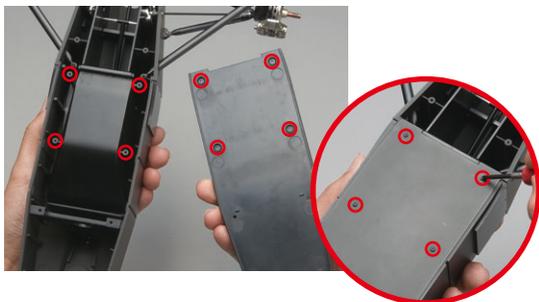


■フロントサスアームの赤丸部分を先にモノコック側面に通すと作業がしやすい。

- 赤丸と黄色の丸、それぞれの穴に⑥ビスGを差し、プラスドライバー (0番)で締める。



- モノコックと①で外したモノコックボトムプレート(後)を再び合わせ、ビス留めする赤丸の4箇所を確認し、ビスJ4本をプラスドライバー (00番)で締める。



- モノコックにフロントサスアーム(右下)が取り付けられた。



### 3 ホースAにワイヤーAを通す

- 17号で組み立てたサイドポンツーン(左)を用意する。



- ④ワイヤーAを解く。



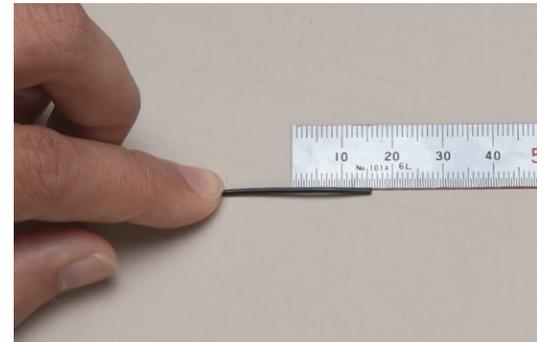
- 写真のようにワイヤーの片方をしっかり固定し、クセがついている部分を指でしごく。



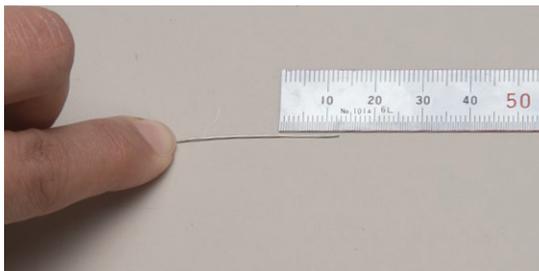
- 引っかかりのないよう、できるだけ真っ直ぐにする。



- ③ホースAを16ミリの長さにカッターでカットする。

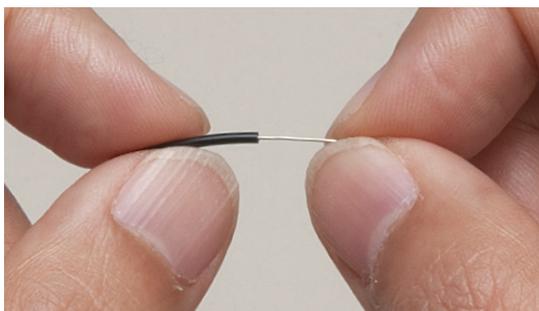


- ④ワイヤー Aをカッターで押し切るようにして、ホースAよりも3ミリ短い13ミリの長さにカットする。



■ホースA、ワイヤー Aは実際に使用する分よりも長く提供されているが、今後も使用するため、できるだけ指定と同じ長さ、またはプラス1ミリ以内におさえる。

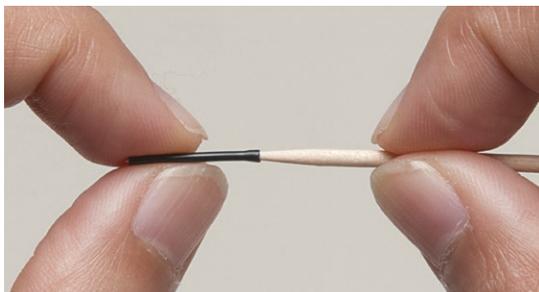
- ホースAの中にワイヤー Aを通し、端を片方に合わせる。



4

## サイドポンツーン(左)にホースを接続する

- ホースの反対側、ワイヤー Aが出ていない部分の穴につまようじを差して5分間ほどおくと穴が広がる。



- サイドポンツーン(左)のバッテリーから出ている突起の先端に、ホースの広げた部分をピンセットで接続する。つまようじで広げたホースの穴は時間とともに収縮するので固定される。



- 角にあたる部分をピンセットで支え、サイドポンツーン(左)の側面に沿って指でホースを軽く押し曲げる。



- サイドポンツーン(左)にホースが取り付けられた。



## Check



完成時イメージ▲

- ホースの先は後の号のパーツと接続される。

## 今号の完成

モノコックにコクピットとフロントサスアーム(右下)が装着され、サイドポンツーン(左)にホースが取り付けられた。



## 保管パーツ

今号で使用しなかった①トロックロッドと⑦ビスP、⑧ビスQ、今号で使用した③ホースAと④ワイヤー Aの残りは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。

